

科学的社会認識を育てる授業研究 ～主体的・対話的で深い学びの創造～

I 主題設定の理由

小学校社会科教育部会ではこれまで、「科学的社会認識を育てる授業研究」を研究テーマに掲げ研究を推し進めてきている。

「社会認識」とは、社会の事象・事実の本質を客観的に把握することである。社会科において、わかる授業づくりを進め教科の目標を確実に実現するためには、子供たちの社会認識を着実に育成することが大切であると本部会では考えた。さらに、社会の事象・事実の本質を客観的に把握することは社会科学の手法に基づいて進められることから、社会認識を「科学的社会認識」（大森昭夫「新社会教育基本用語辞典」：明治図書）としてその育成に焦点をあてて部会研究を推し進めてきている。

今年度より、小学校では新学習指導要領が実施となった。新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善の方向として、「主体的・対話的で深い学び」による授業改善が求められている。

こうしたことから、本部会では今年度、「科学的社会認識を育てる授業研究～主体的・対話的で深い学びの創造～」を研究テーマとして掲げ部会研究を進めてきている。

II 部会研究について

1 研究の内容

- (1) 社会的事象の教材化
- (2) 教師の効果的な指導や支援（発問や板書、資料の提示、資料の活用等）
- (3) 社会認識の深まりの見取り（学習の評価）
- (4) 授業の振り返り（授業の評価）
- (5) 言語活動の充実（位置付け、内容）

2 研究の方法

- (1) 授業実践研究（大藤小 6年 川崎 剛 教諭 2月）
「歴史を学ぶ意味を考え未来につなげよう」
～なぜ、明治40年の大水害で、大藤・神金地区の被害が大きかったのだろう～
- (2) 教材研究・実践発表・地域教材の紹介

III 成果と課題

1 成果

- (1) 新学習指導要領の視点を意識した主体的・対話的で深い学びにつながる授業実践をおこなうことができた。
- (2) これまでの歴史学習の知識などを活用し、地域の歴史を比較・関連付け、これからの社会の課題について考える学習をすることができた。
- (3) 実践発表を通して、地域教材についての理解を深め、授業実践に活用することができた。
- (4) コロナ禍であったが、感染症予防対策にも対応した研究授業を行い、小中の交流を深めることができた。小から中への学習内容の系統性についても学ぶことができた。

2 課題

- (1) 部員の減少・固定化が課題である。多くの先生方に社会科の魅力が発信していけるような授業実践を継続していきたい。
- (2) 地域教材の研究や開発にも取り組み、地域の魅力を発信していくことにも今後取り組んでいきたい。

（小学校部長 三澤 瞬 日下部小学校）

市民を育てるための「主体的・対話的で深い学び」をどのように実現するか

I 主題設定の理由

今年度より、市民を育てる「主体的・対話的で深い学び」を得るために、必要な学びの手段及び方法を研究するとした。初任者研修における模擬授業報告、学習会、各自の授業実践の報告、情報交換等、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて研究することで、次のような生徒の育成に繋がるものとして進めた。

- ① 学習課題に対し、主体的な学びに向かうことのできる生徒
- ② 追及すべき課題を明確にとらえることのできる生徒
- ③ 他者と協働し対話的な学びから考えを深めることのできる生徒
- ④ 導き出した結論を、様々な資料や他者の意見を参考にしながら検証することのできる生徒

生徒にとって、「主体的な学び」や「対話的な学び」は、生徒たち自身の力を着実に育み、これらの学びから得た力が将来に繋がるよう努めていかなければならない。これまでの科学的認識を育てる授業研究を土台に、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を考え、研究を進めてきた。

II 研究内容

- (1) 初任者研修模擬授業の実施報告 酒井 理恵子 教諭 (塩山中学校)
中学3年生 歴史的分野 題材：近代産業の発展と近代文化の形成
- (2) 学習会 …「指導と評価の一体化について」
講師 萩原 義晃 指導主事 (山梨県総合教育センター)
- (3) 各自の授業実践の報告
※今後のICT活用に向け、各自における授業実践及び指導上の工夫を持ち寄り、実践研究を行った。
- (4) 情報交換 ※授業実践を持ち寄ることでの情報共有と活用するための検討を実施した。

III 成果と課題

- 市民を育てる「主体的・対話的で深い学び」をどのように実現するか、に部会テーマを改めたことで、「主体的・対話的な学び」という観点をより意識し研究に向かうことができた。
- 模擬授業の報告において、生徒は思考ツールを活用することによって、主体的に自らの考えをまとめることができた。明確な意図を持って授業を仕組むことは、生徒の大きな変容に繋がるということ改めて確認することができた。
- 小学校での授業参観を通して、より身近な資料を提示することや視覚に訴えることのできる資料の活用は、深い学びを得るためにも重要なものであると学ぶことができた。
- これまで以上に、より「主体的・対話的で深い学び」について研究を深めていくことが必要である。より効果的な学びを得るための研究をしていくべきである。
- ICT活用について授業実践報告を受け、さらにどのように実践が有効なのかを検討したい。

(中学校部長 金森 淳 塩山北中学校)